

Place

無印良品キャンプ場

リゾート開発が多くの環境問題を引き起こしてきた中、1995年のオープン時から変わらず「自然環境の保護と地域とのつながり」をコンセプトに、その土地の豊かな自然をそのまま残しているのが無印良品キャンプ場だ。

例えば新潟県の津南キャンプ場は広葉樹の森に囲まれ、小動物も多彩で、山菜採りやキノコ狩りを楽しむこともできる。“豊かさと同化する”キャンプ場を目指し、環境破壊に結びつくような設備はつくらず、起伏のある地形をそのまま活かしているため、キャンプエリアによってはテントのセッティングに工夫が必要で、キャンパーの腕の見せ所だ。

客の好みに合わせて自然を改変するのではなく、そのままの自然を愛する人を客として集める、そんなビジネスが始まっている。



津南キャンプ場
無印良品キャンプ場
<https://www.muji.net/camp/>

Activity

身近な環境マークを集めてみよう！ 「環境マークプログラム」

FSC® やレインフォレストアライアンスなど、私たちの生活には多くの環境マークがあふれている。

地球温暖化防止全国ネットが開発した「環境マークプログラム」は、さまざまな商品・サービスについている環境マークを子ども達が力を合わせて探し出す取組だ。一つひとつのマークが持つ意味や、その背景にある地球温暖化問題をはじめとした環境問題について考えるきっかけを提供してくれる。また、プログラムを体験した子どもとの語らいから、親子の環境配慮の意識にも変化が生まれているという。

まずは普段の買い物から、環境に目を向けるきっかけとして活用してみたいはいかがだろうか。

「環境マークプログラム」
ツールセット
9,000円(税込)
環境マークポスターや環境マークずかんなど、
こども20名+指導員5名分のセット。
<https://www.zenkoku-net.org/gakudo/>



Book

世界の食卓と農業を守る鍵 “家族農業の10年”

私たちにあって「食べること」は喜びであり、また命をつなぐためにも欠かせない。しかし、ここ数年の異常気象や感染症の発生は、これからも栄養豊かで、安全で質の高い食を将来にわたって十分に確保できるのかという課題を浮き彫りにしている。

国連は、持続可能な農と食のあり方を実現するために2019～2028年を国連「家族農業の10年」と定めた。

本書は、“家族農業はSDGsの要”だとして、小規模な家族農業経営が担ってきた、環境にも社会にも優しいシステム「アグロエコロジー」の可能性や、だれもが農的暮らしをできる社会に向けての取組などを紹介している。



食と農から新しい社会をつくるために、是非手に取っていただきたい。

『13歳からの食と農 家族農業が世界を変える』
関根佳恵(著)
かもがわ出版(2020年11月)
本体価格1,600円+税

『13歳からの食と農 家族農業が世界を変える』
関根佳恵(著)
かもがわ出版(2020年11月)
本体価格1,600円+税

Movie

種子の多様性が危ない？

人類が農耕開始以来増やしてきた種子は、ここ100年で急激に種類が減り、その9割が既に失われたといわれる。

2010年以降、ラテンアメリカでは、農民による種子の保存を禁じ、企業から種子を毎回買わなければならない通称「モンサント法案」が多くの国を駆け巡った。農民を先頭に様々な人々が声を上げ、大規模な反対運動が起こった。この映画は、種子を守り、地域の経済や文化、食料主権を守る闘いを描いた作品だ。

種子は人類の共有財産であり、種子が無くなれば私たちは生きていくことはできない。

私たちの生命や文化を支えているタネの多様性を守る大切さや、これからの農業や食のあり方について改めて考えたい。



『種子—みんなのもの？それとも企業の所有物？』
アジア太平洋資料センター (PARC)
DVD / 本編41分+解説編30分 / 2018年
本体価格：3,000円+税 (図書館価格：本体15,000円+税)